

# 時の動き

## 米・日の帝国主義戦争にNOの声を！

全国一般東京東部労働組合書記長

須田 光照



### 米帝のベネズエラ侵略を許すな

東京東部労組は1月6日夜、米国のベネズエラ侵略に抗議する緊急の駅頭情宣を実施した。

同日に開催した労組の執行委員会で、1月3日に米国トランプ政権がベネズエラに大規模な軍事攻撃を仕掛けて民衆を多数殺害したうえ、マドウロ大統領夫妻を拘束・連行したことに怒りの声が相次いだ。

帝国主義と闘う世界の民衆に続くよう  
と意思一致した執行部メンバーは、ただちに事務所の最寄駅である葛飾区・お花茶屋駅頭で「米国はベネズエラ侵

略をやめろ！ 労働者人民は帝国主義に反対しよう！」と書いた横断幕とプラカードを掲げて情宣を開始した。

マイクを握ったメンバーは「中南米を勝手に米国の『裏庭』扱いするな」「トランプこそ殺人・拉致監禁の罪で裁かれるべきだ」「米国の侵略を一切批判しない高市政権も同罪だ」と日米両政府を糾弾する声を上げた。同様の駅頭情宣は1月11日にも実施した。

### トランプ版モンロー主義の狙い

米国はベネズエラへの侵略を「麻薬取り締まり」を口実に正当化しているが、本当の狙いが反米左派政権の転覆

にあることは明らかだ。それはトランプ政権が昨年12月に発表した「国家安全保障戦略」に基づく行動である。

その文書では米国一極による従来の世界支配は現実的ではないとして南北アメリカの西半球に照準を絞ったうえ、そこを排他的・一元的に支配するトランプ版「モンロー主義」を打ち出した。トランプが再三口に出しているグリーンランド領有への欲求もその一環である。

新戦略の実現のためにはベネズエラ、コロンビア、ニカラグアなど中南米に点在する反米政権の転覆、なによりも社会主義を掲げるキューバの打倒が最大の優先課題にせり上がっている。ト



米国の軍事侵略に抗議する駅頭情宣行動

1月6日、葛飾区 お花茶屋駅にて

ランプはキューバへの経済的な圧力を強めて体制転換を図る考えを隠しもしない。

### 対中国軍事包囲網と日帝の野望

米帝の新戦略はアジア太平洋地域を無視しているわけではない。むしろ中国との対決を見すえつつ、しかし現段階では没落しつつある帝国主義として

一国で中国に対抗する力が経済的にも軍事的にも不十分であることから、当面は日本や韓国などの同盟国を前面に押し立てて対中国包囲網を築こうという戦略である。

これに対して日本の資本家階級は帝国主義として生き残りを図るために米国の新戦略に追随するだけではなく、自らの利益を獲得すべく積極的・主導的に動いている。

高市政権が「台湾有事」が日本の存立危機事態にあたるなどと中国への敵意を前面化させ、安保三文書の前倒し改定による軍事費の拡大、スパイ防止法の制定、非核三原則の見直し、さらには憲法改悪の実現を狙っていることは日本独自の帝国主義的な野望にほかならない。

### 落日の帝国主義を終わらせよう

このように米国と日本のいずれの支

配階級も、凶暴かつ破滅的な戦争政策を進めているが、それらはけつして余裕の現れではない。これまで通りのやり方では世界を支配できないという落日の帝国主義が最後のあがきを見せていると捉えることができる。

一見恐ろしく見えても米日帝国主義は「張り子の虎」に過ぎない。本当に力を持っているのは世界の労働者人民である。それを証明するように帝国主義からの侵略や圧迫に直面している、ベネズエラでもキューバでも民衆が街頭に出て帝国主義にNOの声を上げている。

真に平和な社会をつくるため、日本でも今こそ中国・韓国・朝鮮の労働者人民と連帯し、米帝国主義をアジアから最後の的に叩き出し、日本帝国主義の高市政権を打ち倒す運動を強めていこう。

(すだ みつてる)